

IV カーボンフットプリントの縮小

商品のライフサイクル全般（原材料調達から廃棄・リサイクルまで）で排出された温室効果ガスを二酸化炭素量で表したものをカーボンフットプリントといいます。成長過程で二酸化炭素を吸収する木材を原料に使うバイオマス発電は再生可能エネルギーとして認められていますが、原料を海外からの輸入に頼ると、運搬過程で多量の二酸化炭素を排出してしまいます。早生樹の活用により原料の運搬距離を縮めることで、バイオマス発電を真の再生可能エネルギーとして確立させます。

V 地域経済への貢献

早生樹の研究と利用により、地域の木材業界や関連産業の発展を支援し、地産地消の原則に基づき、地域の需要に合わせた木材供給の促進を行います。

雇用創出と地域コミュニティの支援

早生樹の栽培や加工に関連する作業により、地域の雇用機会を創出することは、地域に働き方の選択肢を提供し、人材流出の防止にもつながります。

地元のイベントやマーケットでの早生樹製品の販売や、地域交流プログラムの推進などを通じて、地域経済とコミュニティの発展を促進し、地域の活性化を支援します。

VI 会員間の情報共有と交流

当協会は、会員の皆様に以下のような機会を提供します。
・会員間での情報共有を通じて、早生樹の研究成果や最新の技術動向を共有します。

・協議会内でのワークショップやシンポジウムを開催し、意見交換やディスカッションの場を提供します。

・協議会メンバーの連携を促進し、相互の経験やノウハウを活かした研究活動の推進を支援します。

表紙写真：ハルシバヤナギの2年生木 H≒6.1m
撮影地 三重県松阪市

一般社団法人脱炭素推進協議会

ご挨拶

一般社団法人脱炭素推進協議会は、持続可能な未来を、地球温暖化のリスクを回避し、循環経済を推進することによって実現するために設立しました。

現在、地球温暖化は私たちが直面している最も深刻な課題です。今夏の異常な暑さに象徴されるように気候変動の影響はますます顕著となり、私たちの日々の暮らしに支障をきたしています。この危機的な状況を真剣に受け止め、私たちは積極的な行動を起こす必要があると考えています。

地球温暖化のみならず資源の枯渇も深刻で、循環経済を基盤とした産業構造へ移行することで二つの危機に備える必要があります。こうした経済活動にも脱炭素化が求められることから、今後ますます再生可能エネルギーなどの非化石燃料によるエネルギー転換が重要になるでしょう。

このような課題に対して、私たちは、地球温暖化対策として脱炭素化活動の普及活動や早生樹を利用した木質バイオマス循環システムの構築など、二酸化炭素削減に貢献することを目的として活動します。

私たちは、持続可能な未来の実現に向けて、脱炭素化に関する情報発信や制度活用に関する事業を通じ、企業や地域社会における環境意識の向上と、具体的な脱炭素活動を促進します。

設立年月 2023年8月

一般社団法人脱炭素推進協議会代表理事 高橋伸也

一般社団法人脱炭素推進協議会

Address 〒103-0028

東京都中央区八重洲1-5-15 田中八重洲ビル2階

Tel 03-3527-9895（シンエネルギー開発株式会社内

担当：渡邊・埜本）

Fax 03-3527-9893



一般社団法人
脱炭素推進協議会
reduce carbon emissions

私たちは、以下を具体的な活動として、
地球温暖化対策
循環経済
地域経済に貢献します。

I 脱炭素化推進活動

持続可能な社会の重要性を発信し、企業や組織、個人が脱炭素化活動へ主体的に参加することを促します。

脱炭素に関する制度などの情報発信や調査研究活動、環境省が2023年夏から開始する「脱炭素アドバイザー制度」（企業の脱炭素に向けた取り組みに関して、専門的なアドバイスを行う人材を育成する民間資格制度を国が認定する制度で、専門性の高さに応じてベーシック、アドバンスト、シニアアドバイザーの三つの階級を設け、いずれも環境省が認定する試験への合格や研修の受講などが条件となる）の活用で社会全体の環境意識の向上に努めます。

II 早生樹による循環型経済への貢献

木質バイオマス発電の課題の一つとなっている国内産燃料調達を、早生樹の循環利用によって解決しようと考え、群馬県、山形県、沖縄県においてハルシベヤナギの育成試験を実施しています。これは、（一社）北海道農畜産再生協会がヤナギに竹茎を挿木して開発した新樹木で、

1. 生育が早く短期間で伐採が可能である。
2. 竹の繊維質（維管束鞘）により、靱性強度に優れる。
3. 荒廃農地、海岸線、河川湿地帯にも適応する。
4. 加工しやすい。

という特徴があります。ハルシベヤナギにおける木質バイオマス発電燃料としての適用性や木材加工品としての可能性を研究するとともに、持続可能な森林管理や木材加工技術の向上を支援し、木材のサプライチェーンにおける環境負荷の軽減を目指します。

早生樹の具体的な研究、事業項目

- ・早生樹の特性や成長パターンを研究し、効率的な育成方法を開発します。
- ・栽培技術の研究や最適な栽培環境の提案を行い、持続可能な供給源を確保します。
- ・早生樹を活用した地域の農林業活性化について研究します。
- ・森林経営の改善に繋がる調査・研究を実施します。
- ・早生樹の植林、育成、利活用によるCO₂削減に関する調査研究を実施します。

III 木質バイオマス発電への貢献

早生樹の特性や適用性などについて調査・研究を行い、木質バイオマス発電燃料利用についての有効性を探るとともに、早生樹の迅速な生育特性を活かし、大量の木質バイオマスを供給することで、再生可能エネルギーであるバイオマス発電の増加に寄与できる仕組みづくりを行います。

また早生樹を活用した供給システムの調査・研究を実施します。

